

- 肉用牛繁殖経営における子牛1頭あたりの生産費に占める飼料費の割合は4割に達する。そのうち購入飼料の占める割合は7割であり、飼料費高騰による経費増加が課題となっている。
酪農経営においては1頭あたりの乳量向上により生産性の向上を図ってきたが、国際的トウモロコシ取引価格の上昇により、生産費の4分の1を占める飼料費が高騰しており経営状況が圧迫されている。
→先行する肉用牛に加え酪農に対し、以下の働きかけを行うことで、管内畜産農家の飼料コスト削減を図り、水田活用を補佐する
- 一方、地域においても高齢化や米価の下落により水田活用の再編成が検討されており、稲WCSや飼料米、転作作物の検討が成されている。
→酪農家における茎葉型品種の利用推進。牛群検定情報を活用した飼養管理指導

具体的な成果

普及指導員の活動

- 1 放牧の推進**
 - 放牧面積の拡大
県単放牧事業を活用し、
新たな放牧地223aを拡大
放牧頭数7頭増頭見込み
 - ネピア展示圃
栽培についての指導を実施。
8戸の農家で取り組んだ
また、ネピアの圃場に冬作飼料を播種し、周年利用に向けた検討を実施できた。
※矮性ネピアグラス: 栄養繁殖で増殖する越冬性の高い暖地型牧草
 - 小値賀スマート放牧
放牧体系の転換を実施。
受胎率 18%→75%
平均授精回数 2.36回→1.25回



- 7月～3月 事業計画作成等支援**
放牧組合員に対し、現地調査や事業計画作成、電気柵の設置指導を実施した。
- 通年 展示圃調査**
畜産研究部門と連携し、ネピア苗の配布を行い、併せて栽培方法の指導を実施した。
- 通年 酪農巡回**
3農家に対し、関係機関と連携して定期巡回を実施。牛群検定成績やボディコンディションスコアを基に指導を行った。
また、牛群検定実施農家(5戸)に対し、ベンチマークによる巡回指導を実施した。

- 通年 放牧指導**
小値賀担い手公社、小値賀町、畜産課、農産園芸課と連携し、定期的な管理運営検討会を実施。またネピアを活用し、草地造成を支援した。

普及指導員だからできたこと

- 2 酪農基盤強化への支援**
 - 酪農指導巡回
定期的な巡回指導を実施し、給与メニューの価格等を見直すことで、**飼料費の低減につなげることができた。**
併せて後継者への指導も行うことで、経営参画を促した。

- ・ 放牧事業活用農家は新規就農者でもある為、関係機関にはたらきかけ、定期的な経営指導や繁殖指導を実施することができた。
- ・ 各農家の課題に沿った専門的な指導を実施することができた。

- 新規就農者確保のために、**関係機関や農業士と連携**し、就農候補者の早期把握と就農意欲喚起に向けた取り組みが必要。また、新規就農者育成に関しては、農業経営安定のためのフォローアップが必要。
- 農業後継者が減少する中、**後継者同士の連携を深めると共に、経営能力の向上**を目指すために**4H活動等への支援**が重要。
- 農業士や関係機関等と連携した結果、**新規自営就農者21名、新規雇用就業者15名を確保**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 新規自営就農者の確保

■関係機関や農業士等と連携を図り、**新規自営就農者21名**を確保(R2.1月現在)。このうち9名は技術習得支援研修等の研修修了生。

1) 就農ルート別新規就農者数

- ①新規学卒就農者(農大・農高等) 2名
- ②Uターン就農者(農家出身者) 13名
- ③新規参入者(Iターン・非農家) 6名

2) 品目別新規就農者数(うち50歳未満)

- ①露地野菜 3(2)名
- ②施設野菜 7(6)名
- ③果樹類 2(2)名
- ④花き花木 2(2)名
- ⑤肉用牛 7(7)名

2 新規雇用就業者の確保

■生産者へ農の雇用事業の活用等を助言した結果、**新規雇用就業者は15名**(R1.9月現在)を確保。

■雇用型農業を目指す**生産者と雇用就農を希望する農大生とのマッチング**等を農大と連携して実施した結果、次年度農大生2名が就職見込み。

3 4Hクラブ会員の確保・育成

■各4Hクラブによる新規会員勧誘を支援し、**新規会員2名**を確保。農大2年生と各4Hクラブとの交流を仕組み、農大生2名が次年度加入の意思を明示。

■平戸4Hがプロジェクト発表の部にて、特別賞を受賞。

通年

○**県北農業士会の活動**で、新規就農者の情報提供を呼び掛ける**チラシ**を配布。

○**関係機関との連携会議**(県北地域就農支援センター会議やJA営農技術者会等)や農業士等の生産者から提供された**新規就農候補者リスト**を作成。連携会議では情報の精査や更新も実施。



6月および9～10月

○**農家等派遣研修等**を活用し、**雇用就農希望の農大生**と雇用型農業を目指す生産者をマッチング。

10月および2月

○**農家等派遣研修(集合研修)**や**ナガサキ・アグリネット・フォーラム**を活用し、**親元就農予定の農大生**と4Hクラブ会員との交流を支援。



集合研修で講師を務める4H会員

普及指導員だからできたこと

・日頃から連携している生産者やJA、市町等の関係者を結びつけ、新規就農者等の確保・育成および新規4H会員の確保ができた。